

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポニーの家		
○保護者評価実施期間	令和6年 9月 1日		～ 令和6年 10月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和6年 9月 1日		～ 令和6年 10月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 10月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	食育の一貫でクッキングを行っています。月に二回の土曜日・長期休み(春休み毎日・夏休み毎日・冬休み毎日)に子どもたちが食材に触れスタッフと調理し・自分たちが触れた食材を食べ偏食をなくそうと言う取り組みを行っています。(手作りおやつ提供も含む)	子どもたちと一緒にいることで、自分が作ったから食べてみようや、～さんが作ってくれたから食べてみようという意識が生まれます。	食材の買い出しに人数を決め、子どもたちと一緒に買い出しへ行き四季の食材を知る機会・提供する料理の元はどのような食材かを手で触り目で見て一緒に購入します。
2	地域の校区の子どもたちの居場所にも・・・事業所の子どもたちが一緒になって遊ぶことが出来る・地域の子供たちが遊びに来てくれることにより、事業所の子どもたちには良い刺激を与えてもらっています。	事業所の子どもたちが、地域の公園等で活動している際に、地域の子供たちが活動していたら、一緒に活動し時間を共有し交流を図っています。	地域の子供たちが、気軽に立ち寄れる場所として、事業所の休みを利用して月1回事業所の代表2名と職員1名が有志で場所のみを使用して子ども食堂の運営もはじめました。9月から始まった子ども食堂で認知度はまだまだ有りませんが、地域の子供たちの居場所にも取り組んでいます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	若手の女性職員の確保が難しい。	家族間経営の影響もあるかと思いますが、また若い人の人材自体の確保が難しいと思われます。	給与や賞与の見直し・働きやすい環境の整備なども見直しが必要
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ポニーの家
------	-------

公表日 令和6年 10月 30日

19 利用児童数 令和6年 10月 30日 9回収数

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。			9		現在作成中のため作成後公表と保護者への周知を図ります。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9				
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。		9			
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。		9			
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	9				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9				保護者会の活動はしていますが、兄弟関係での活動にまで行えていません。保護者を含めた活動に保護者からは反対意見もあり保護者のみでの開催が良いと行ったお声もあるからです
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9				

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8	1			写真などの掲載は顔を隠してほしくないという保護者もあり、覚児童の保護者に写真の添付を行っています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9				
	29	事業所の支援に満足していますか。	9				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ポニーの家		公表日		令和6年 10月 30日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		子どもの活動スペースは70平米近くあり、子どもたちには余裕を持って活動出来るスペースがあります。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		定員10名に対し常勤職員6名（児童発達管理責任者1・名保育士2名・児童指導員3名）・非常勤運転手専属2名の配置	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		子どものスペース・事務所1（キッチンスペース）洗面室・事務所2（PC部屋）相談室を確保していますが、段差は2カ所あり。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		日々の活動後に掃除・塩素系での消毒を行い感染対策も行っていきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		相談等無い場合は、相談室で個別の部屋として使用。（学習・工作・クールダウン）	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		職員会議を行うことで日々の活動の振り返りや今後の目標を話し合い業務の改善を図るようにしています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員会議を行い、問題点を話し合い改善を行うよう心がけている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員会議を行うことで、個々の職員の思いや意見を受け止め職員全体で協議を行いながら業務に取り入れ活動につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部への設置はしていませんが、社内での評価に対し改善につとめている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		様々な研修に参加を促し、研修後のレポートを書いてもらいながら職員会議の際には報告と共有を行っています。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6	現在作成中	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		事業所内で子どもたちにニーズや目標などを話し合い保護者との面談の際に子どもたちの思いを伝え取り入れて行うようにしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員会議で共通理解を行いながら検討をおこなっています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		共有・支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		5領域の狙いを踏まえ行っています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		若手職員でチームとなり、四季に応じての外活動や室内での活動等検討し活動してもらっています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		6	児童にもよりますが逆に固定化することによって、スムーズな活動になり次の活動に移行しやすい事もあります。	マンネリな活動にならないように工夫はしていますが居場所を最優先にしている児童も居るのでその中で出来る事は行っています。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		6		長期休みなど朝ら児童の利用日には、送迎が早い ため出来ないことがあり、送迎後に個々の職員に つてる事があるので、今後改善が必要
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日、個別ファイルに記入・その日の出来事 や今後どうするかなどの記入が必要な事を記 入るようにしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		相談事業所・学校などに連携し。職員全体で 行い保護者と面談しています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		必要に応じ、児童指導員と同行することもあり ます。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		計画を立てる前に、児童と面談をして聞き取 りを行い、保護者との面談にしています。	
関係機関 や保護者 との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		必要に応じて児童指導員の動向も行います。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		医療関係等の連携はまだまだむづかしいです がその他の各関係基幹での連携は随時行っ ています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		各学校には初回のお迎えの際には指定証と職員の名前・車の車種を提出し管理職や支援の先生に手渡し、会議を行い開始。学年が上がる際には再度担当の先生と会議を行い連携を図っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		保育園・幼稚園等の許可があれば行ってい ます。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		就労先やグループホームへ移行した児童には 事業所に伺い児童の様子など見学をさせても らっています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		利用児に児童発達支援センターでの相談員が いる場合は随時連携を重ねています。	以外の児童に対しての助言を受ける機会は少 ないので今後は積極的にやりたいと思いま す。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		他の事業所との交流は中々ありませんが地域の校 区の子どもたちが事業所にきて事業所の子ども たちと一緒に活動して利する機会があります。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		放課後連絡会の中区担当なので交流会など のお声かけを頂き中区の事業所へ周知参加さ せて頂いています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		保護者とは常に連携を図り共通認識を持つ ようになっています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		保護者との連携から保護者にも支援や手帳の取 得が必要場合は保護者に促し手帳の取得のお手 伝いや、研修などの呼びかけも行っていま す。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約の際には運営規程の説明と利用者負担額 の説明・連絡帳の選択（複写・ノート）・1日 の流れなど説明させて頂きます。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		まずは子ども優先での意見を取り入れ行いま す。保護者にはその後子どもの意思を報告保護 者の意見も伺い取り入れように行っています。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6				
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		子どものことに関し、不安な事や心配事など有 れば連絡して頂き、事業所側からも気づいた ことなどあれば保護者に連絡を行い支援を 行っています。		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		年に2回、秋と春に保護者交流会を行っています。秋はBBQをしながらの交流会。春は喫茶店でお茶会を行い保護者同士の交流会を行っています。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			今現在苦情等はありません。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	6	日々の活動の中で撮った写真などはその都度保護者に写真添付しメールで個々に対応しています。	保護者様の中には何名か写真で顔を隠してでも載せてほしくないと言う申し出等もありますのでSNSでの発信はしておりません。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		地域の校区の小学校のお友達や事業所に遊びに来てくれ、事業所のお友達との時間を持っています。子どもたちも良い刺激を受けいつもより活発に活動しています。また、職員が有志で事業所を借りて月に1回の子ども食堂を9月から開始始めたばかりですが地域の方々にはよくお声かけ頂き顔を出して頂いています。また自治体との連携もでき、交流が持っています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		年間計画をたて、計画に沿って決まった月に研修や委員会など開催しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		以前は服用出来ない幼稚園や保育園もありその際は事業所で服用。その際は保護者に1回分として頂き連携を行いながらの服用を行っていました。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		アセスメントで確認を行い、おやつ・クッキングではアレルギー食除去を行い提供・必要に応じて緊急時の薬を事業所で保管しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画の予定を立て、月ごとに訓練や研修・読み合わせなどを行っています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	6		4月以降の安全計画を保護者に周知出来切れていないので早急に行いたいと思います。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		安全計画等でも取り入れ行っています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		市や放課後連絡会等の研修に随時参加・虐待・身体拘束委員会時に厚労省等のビデオを再研修を行ったりしています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	6		拘束力必要な児童がいないため	